



令和元年度とやま呉西圏域調査研究事業

呉西地区における
「外国人材受入れ・多文化共生」推進への取り組みの検証

2020年8月6日

高岡法科大学

法学部教授 八坂 徳明

目次

1. 調査研究概要
2. 最近の在留資格制度と富山県における外国人労働者の実情
3. ヒアリング調査に基づく多文化共生の実態
4. 地域に根差した多文化共生とは
5. おわりに

1. 調査研究概要

(1) 調査研究概要

- ✓ 調査研究名: 呉西地区における「外国人材受入れ・多文化共生」推進への取り組みの検証
- ✓ 研究主体: 八坂研究室(八坂ゼミ)
- ✓ 期間: 2019/09 ~ 2020/03(6か月)

(2)研究の目的

「生活者としての外国人に対する支援」の重点3項目(*)の実現項目に焦点をあて、現場目線で実効性の高い施策を提言することを目的とする

(*)重点3項目

暮らしやすい地域社会づくり
生活サービス環境の改善等
円滑なコミュニケーション

「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」総務省

(3) アクションプラン

呉西地区に居住する外国人を対象にインタビューを実施し、通常のアンケート(*)などでは掴めない生の声の収集を行うことで、質的な分析を行う

◆ アンケート・兼ショートインタビュー (face to face)

たかおか国際フェスティバル(2019年11月17日)会場で実施

◆ ロング・インタビュー

地場で活躍する外国人登録者のなかでオピニオンリーダー的な人物に個別にインタビューを実施

(*) 郵送・メールなどによる質問紙による非対面のデータ収集法

(4) 成果目標

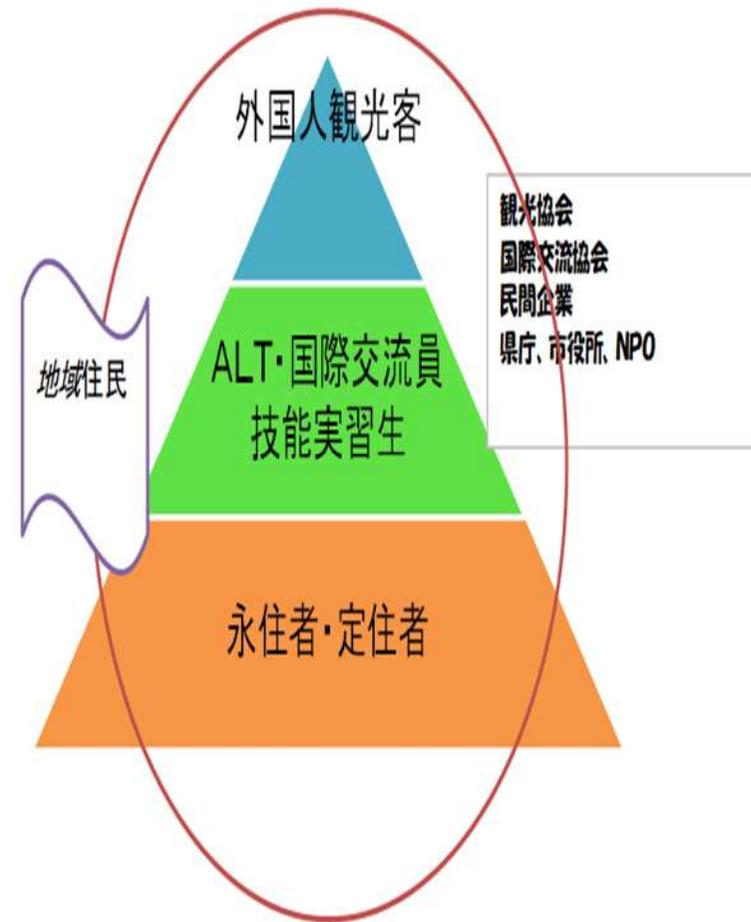
- ✓ 呉西地区の外国人人材が受益者となりうる最大公約数的な「多文化共生」のプラットフォームの提示
- ✓ 呉西地区における「外国人が住みやすく働きやすい環境」を整理し、今後の地方自治体における「多文化共生」の円滑な運用とは何かを提言

(5) 研究調査における問題提起

- ✓ 「地域に根差した多文化共生を考える」場合、アンケート調査・分析だけで十分なのか。
- ✓ 多文化共生の対象者となる外国人登録者である母集団を一律同じカテゴリーで捉えるのは困難ではないのか。
- ✓ 地域に根差した多文化共生を考えるの「共生」者は誰か。
- ◆ 長期間(10年以上)当地に居住し、今後も定住者・永住者として定住の意向がある外国人登録者と、3-5年経過するとこの地を離れ、その後富山とは無縁な地域、環境で生活する可能性が高い存在(技能実習生、外国人補助指導員等)に対し、同じレベルでの地域行政、地域住民がサポートを提供するべきか。

多文化共生マトリックス(仮説)

- いずれの外国人居住者とも「共生」は必要であるとしながらも、当地在住の外国人を在留資格、在留期間というステータスで場合分けして、そのステータスに応じた最適な「共生」のプロポーザルを提示すべきではないか
- 多文化共生の対象となる層を3層に分け、この対象者に積極的に関与する支援団体等を左上の枠の中に標した。
- この3層と支援団体を地域住民が取り巻いているという図式である。



2.最近の在留資格制度と富山県における外国人労働者の実情

(1) 在留資格制度と新たな在留資格

- **特定技能1号**：特定産業分野に属する相当程度の知識又は経験を必要とする技能を要する業務に従事する外国人向けの在留資格
- **特定技能2号**：特定産業分野に属する熟練した技能を要する業務に従事する外国人向けの在留資格

特定産業分野：介護，ビルクリーニング，素形材産業，産業機械製造業，電気・電子情報関連産業，
(14分野) 建設，造船・舶用工業，自動車整備，航空，宿泊，農業，漁業，飲食物品製造業，外食業
(特定技能2号は下線部の2分野のみ受入れ可)

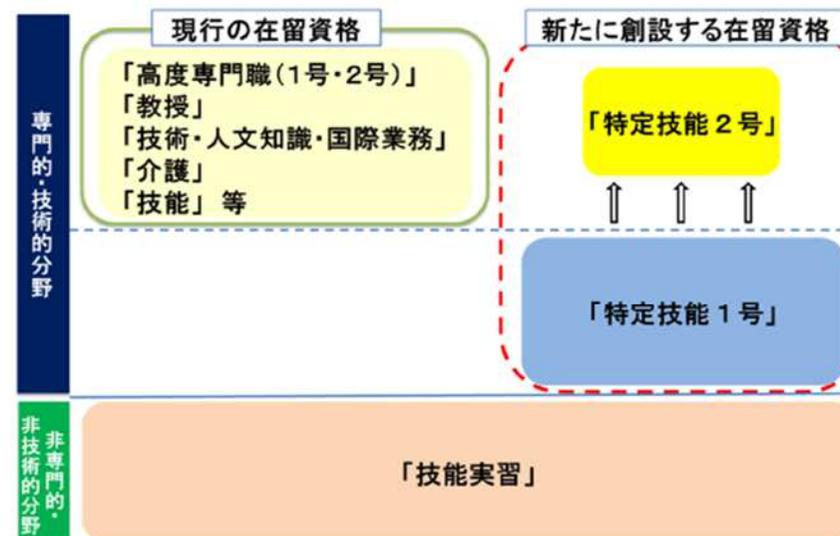
特定技能1号のポイント

- 在留期間：1年，6か月又は4か月ごとの更新，**通算で上限5年**まで
- 技能水準：試験等で確認（技能実習2号を修了した外国人は試験等免除）
- 日本語能力水準：生活や業務に必要な日本語能力を試験等で確認（技能実習2号を修了した外国人は試験等免除）
- 家族の帯同：基本的に認めない
- 受入れ機関又は登録支援機関による**支援の対象**

特定技能2号のポイント

- 在留期間：3年，1年又は6か月ごとの更新
- 技能水準：試験等で確認
- 日本語能力水準：試験等での確認は不要
- **家族の帯同**：要件を満たせば可能（配偶者，子）
- 受入れ機関又は登録支援機関による支援の対象外

【就労が認められる在留資格の技能水準】



出典：出入国在留管理庁

特定技能在留資格-機能充実には課題が残る

項目	要件	期間	永住
技能実習	形式上の実務経験、家族帯同不可、転職不可	3~5年	特定技能への移行
特定技能一号	技能実習からの移行、あるいは日本語能力試験N4ないし独自試験、家族帯同不可。転職可だが14業種に限定	5年	二号への移行
特定技能二号	一号から移行、より高度な技能、語学要件無し、家族帯同可。転職可だが2業種(建設、造船、船用)に限定	期限なし	可
日系二世・三世	資格要件なし	期限なし	可
日系四世	18~30歳、入国時日本語能力試験N4,3年経過時にN3が必要、家族帯同不可。就労職種制限なし	5年	不可

入管法改正後の非熟練労働者の在留要件と在留期間 出典 高谷 (2019:26)

入り口では言語能力などは同じレベル感を有した「外国人材」の受け入れであったはずであるが、“人材の将来的な扱いにつき統一的な見解、見通しが持ち込まれなかった。

富山県における外国人登録者数の推移

(1月1日現在、単位：人)

年度	総数	中国	ベトナム	ブラジル	フィリピン	韓国又は 朝鮮	インドネ シア	パキスタン	ロシア	その他	前年比伸率
2012	13,419	5,722	395	2,238	1,719	1,161	151	438	380	1,215	
2013	12,908	5,354	535	2,033	1,649	1,111	156	438	425	1,207	-3.81%
2014	13,078	5,189	843	1,915	1,673	1,067	185	465	466	1,275	1.32%
2015	13,695	5,009	1,299	1,916	1,810	1,060	231	483	457	1,430	4.72%

年度	総数	中国	ベトナム	ブラジル	フィリピン	韓国	インドネ シア	パキスタン	ロシア	その他	前年比伸率
2016	14,774	4,979	1,963	2,001	1,973	923	311	495	453	1,676	7.88%
2017	16,637	5,021	2,881	2,437	2,148	898	419	507	466	1,860	12.61%
2018	18,262	5,001	4,062	2,465	2,274	887	555	533	464	2,021	9.77%

[注1] 「中国」は台湾を含まない。

[注2] 2016年度より「韓国・朝鮮籍」を分離集計。

富山県における外国人登録者数の推移 出典：富山県（和暦を西暦に修正）

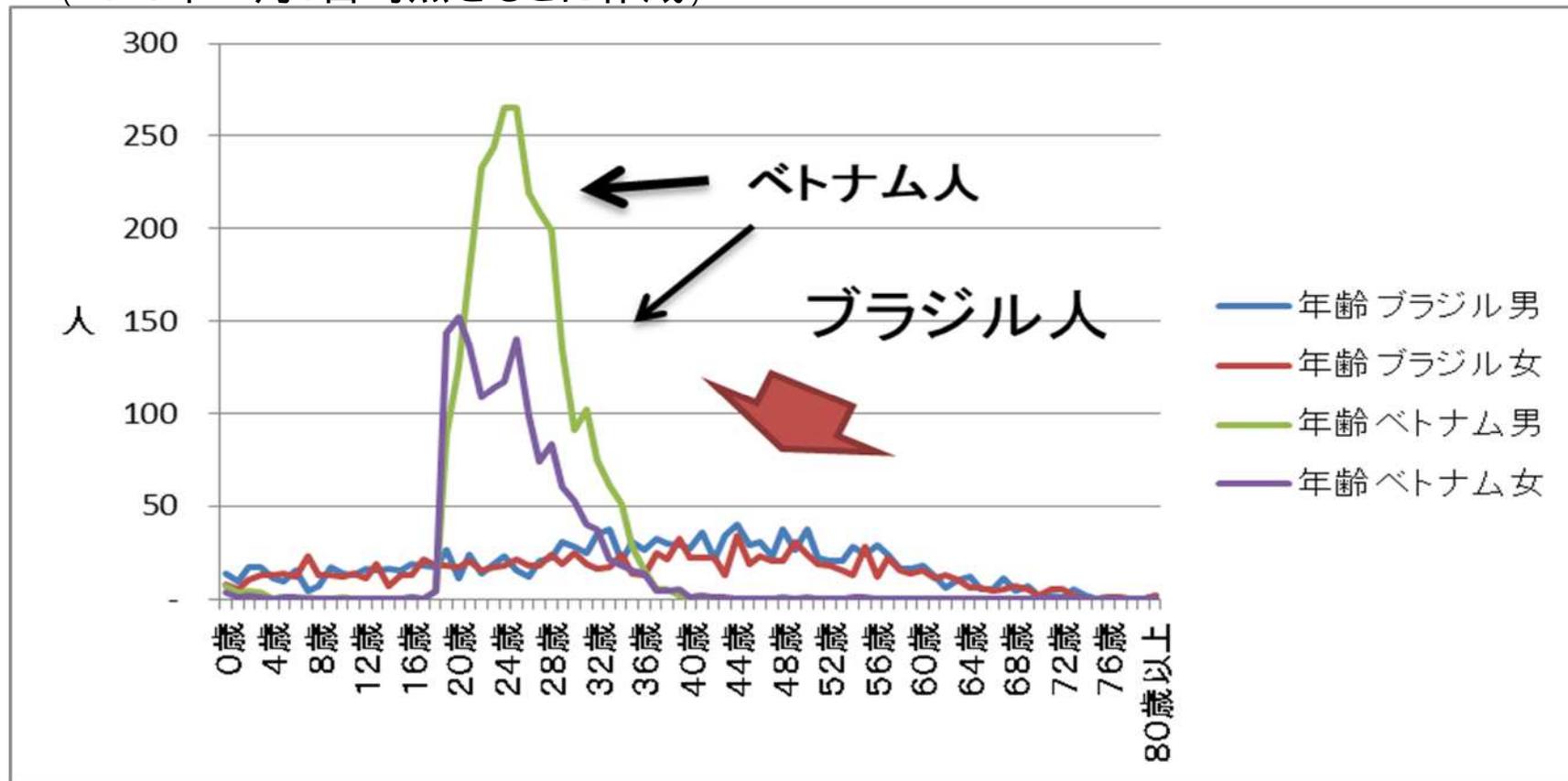
高岡法科大学

国籍別・在留資格別外国人労働者数の比較

令和元年10月末現在													(単位：人)
	全在留資格計	①専門的・技術的分野の在留資格		②特定活動	③技能実習	④資格外活動		⑤身分に基づく在留資格					⑥不明
		計	うち技術・人文知識・国際業務			計	うち留学	計	うち永住者	うち日本人の配偶者等	うち永住者の配偶者等	うち実住者	
総数	11,844	1,183 (10.0%)	840 (7.1%)	173 (1.5%)	6,209 (52.4%)	478 (4.0%)	345 (2.9%)	3,801 (32.1%)	2,045 (17.3%)	617 (5.2%)	104 (0.9%)	1,035 (8.7%)	0 (0.0%)
中国 (香港等を含む)	2,962 [25.0%]	385 (13.0%)	313 (10.8%)	50 (1.7%)	1,498 (50.8%)	160 (5.4%)	112 (3.8%)	869 (29.3%)	555 (18.7%)	199 (6.7%)	54 (1.8%)	61 (2.1%)	0 (0.0%)
韓国	81 [0.7%]	21 (25.9%)	12 (14.8%)	1 (1.2%)	0 (0.0%)	4 (4.9%)	4 (4.9%)	55 (67.9%)	45 (55.8%)	8 (9.9%)	0 (0.0%)	2 (2.5%)	0 (0.0%)
フィリピン	1,559 [13.2%]	24 (1.5%)	8 (0.5%)	27 (1.7%)	570 (36.8%)	4 (0.3%)	2 (0.1%)	934 (59.9%)	590 (37.8%)	123 (7.9%)	25 (1.6%)	196 (12.6%)	0 (0.0%)
ベトナム	3,968 [33.5%]	310 (7.8%)	261 (6.6%)	43 (1.1%)	3,435 (86.6%)	152 (3.8%)	129 (3.3%)	28 (0.7%)	8 (0.2%)	18 (0.5%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)
ネパール	93 [0.8%]	32 (34.4%)	23 (24.7%)	0 (0.0%)	3 (3.2%)	48 (51.6%)	39 (41.9%)	10 (10.8%)	8 (8.6%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
インドネシア	515 [4.3%]	24 (4.7%)	20 (3.9%)	26 (5.0%)	442 (85.8%)	6 (1.2%)	3 (0.6%)	17 (3.3%)	11 (2.1%)	4 (0.8%)	0 (0.0%)	2 (0.4%)	0 (0.0%)
ブラジル	1,559 [13.2%]	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1,556 (99.8%)	653 (41.9%)	181 (11.6%)	13 (0.8%)	709 (45.5%)	0 (0.0%)
ペルー	32 [0.3%]	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.1%)	2 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (90.6%)	18 (56.3%)	1 (3.1%)	0 (0.0%)	10 (31.3%)	0 (0.0%)
G7/8+オーストラリア +ニュージーランド	257 [2.2%]	164 (63.8%)	80 (31.1%)	4 (1.6%)	0 (0.0%)	16 (6.2%)	1 (0.4%)	73 (28.4%)	44 (17.1%)	26 (10.1%)	2 (0.8%)	1 (0.4%)	0 (0.0%)
うちアメリカ	95 [0.8%]	74 (77.9%)	12 (12.6%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	20 (21.1%)	6 (6.3%)	13 (13.7%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
うちイギリス	22 [0.2%]	12 (54.5%)	2 (9.1%)	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (40.9%)	3 (13.6%)	6 (27.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	818 [6.9%]	221 (27.0%)	121 (14.8%)	20 (2.4%)	259 (31.7%)	88 (10.8%)	56 (6.8%)	230 (28.1%)	113 (13.8%)	56 (6.8%)	10 (1.2%)	51 (6.2%)	0 (0.0%)

注1：「」内は、外国人労働者総数に対する当該国籍の者の比率。「」内は、国籍別の外国人労働者総数に対する当該在留資格の外国人労働者数の比率を示す。
 注2：在留資格「特定活動」(2)は、ワーキング・ホリデー、外交官等に雇用される家事従事者等の合計。
 注3：在留資格「特定活動」は、①専門的・技術的分野の在留資格を含む。

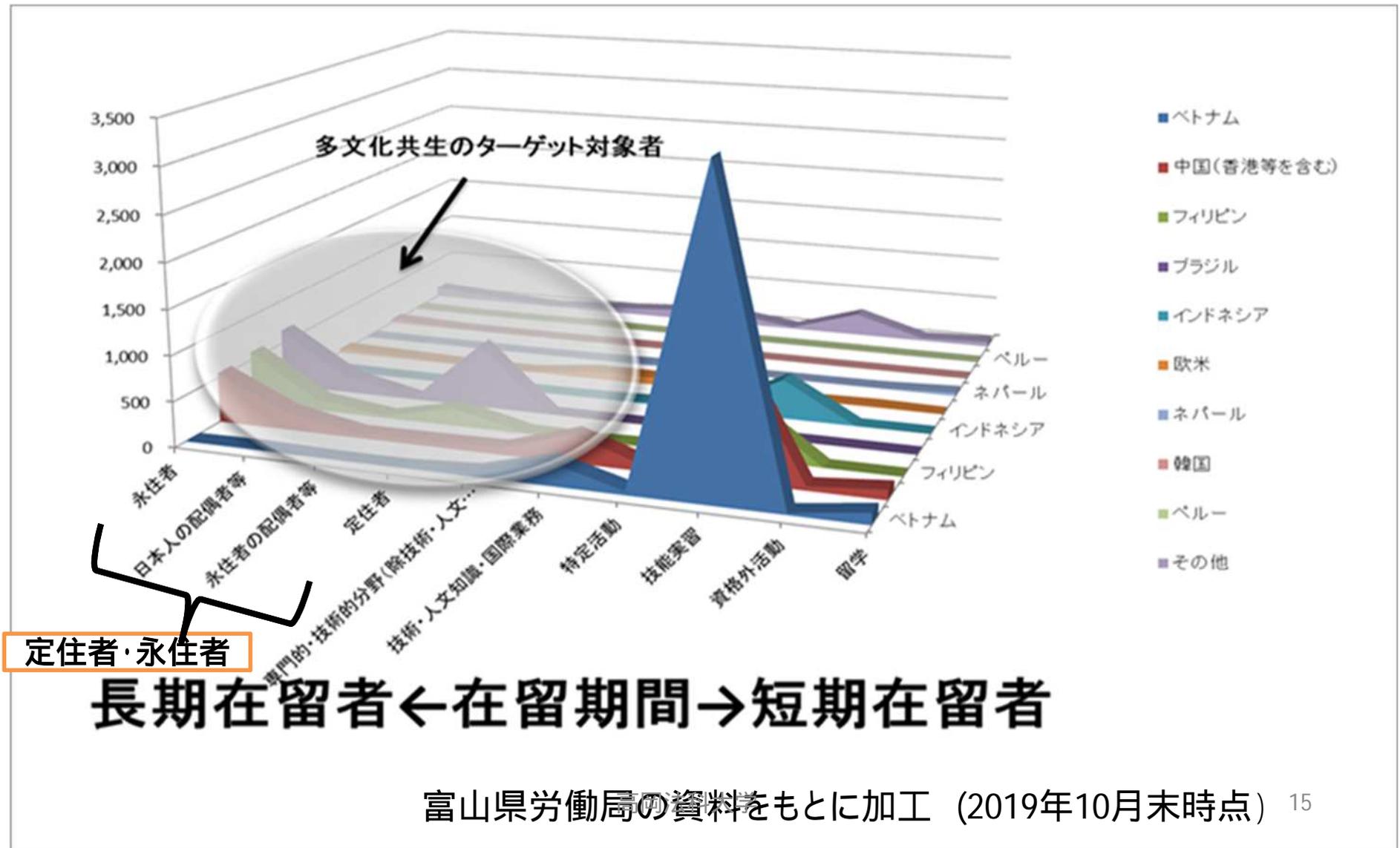
富山県 年齢別・男女別在留外国人(ブラジル・ベトナム)法務省資料
(2018年12月5日時点をもとに作成)



富山県での登録が多く、登録者の大多数の在留資格種別が国籍単位で異なるベトナム人とブラジル人を切り出し、富山県における年齢別構成を比較してみると、**ブラジル人の分布がなだらかな傾斜になっているのに対して、ベトナム人の年齢構成からいけば20代—30代の割合が突出**

多文化共生のターゲット対象となる人たちの整理

国籍別、在集資格別 外国人在留者の比較



地域での「多文化共生」の対象となる人たち

地域経済	例	多文化共生	例	支援団体等
交流人口	観光客	インバウンド	外国人観光客	観光協会
関係人口	地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと	地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと	ALT, 国際交流員、技能実習生	国際交流協会 民間企業
定住人口	移住者	定住者・永住者	日系ブラジル人 アジア系住民	国際交流協会 県庁、市役所、NPO

「多文化共生」の対象者は、日本に定住し、長期にわたり(富山県に)居住し(10年以上)、あるものは配偶者として家庭に入って、生活「生業(なりわい)を営む」している人たちと整理

呉西地区における外国人居住者数

	総数	高岡市	射水市	氷見市	砺波市	小矢部市	南砺市
中国(台湾除く)	1,879	746	357	115	191	160	310
ブラジル	1,729	1,095	362	44	55	70	103
フィリピン	1,282	500	461	55	97	25	144
パキスタン	432	53	379	0	0	0	0
韓国	205	95	63	8	16	9	14
ロシア	194	44	144	3	1	0	2
その他	1,027	347	327	84	100	56	113
総数	6,748	2,880	2,093	309	460	320	686

	総数	高岡市	射水市	氷見市	砺波市	小矢部市	南砺市
ベトナム	1,607	570	328	178	175	188	168

呉西地区 外国人住民数 2019年1月1日現在

 300人以上居住(各自治体 除くその他)

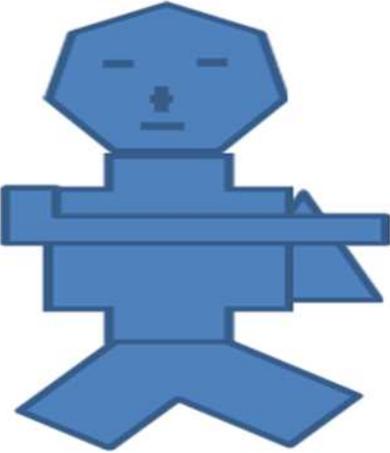
富山県データをもとに作成
高岡法科大学

ヒアリング調査に基づく多文化共生の実態

(1) ヒアリング調査の概要

a) ペルソナ の設定

多文化共生における共生者のペルソナ設定を試みた。ペルソナは「当地居住10年以上」「地域コミュニティと同化」「経営者、もしくは、非雇用者(正社員、パート)」「日本人と共生を目指す意思が強い」人物とした。



- 当地居住10年以上
- 地域コミュニティと同化
- 経営者、もしくは、非雇用者(正社員、パート)
- 地域住民と共生を目指す意思が強い

b) ステップを踏んだヒアリングの実施

「生」の声の収集につき、以下のステップで対応することとした

- ✓ 1stステップ: 地域における多文化共生に関心がある不特定多数の人物との接触
- ✓ 2ndステップ: 地域における多文化共生に関心があり、自らも地域活動、メディアなどを通じて情報発信を行っている人物
- ✓ 3rdステップ: 地域における多文化共生に関心がある2ndステップの面談者の中から、オピニオンリーダー的な人物を抽出、更に「本音」を引き出す。



c) 国籍別ヒアリング調査の留意点

- ✓ 三世までは定住権を有する日系ブラジル人を始めとした母集団は、年齢分布をみる限り、広く、出生から高齢化層にも分布しており、**ブラジル国籍を有する人たちは、当地における多文化共生の共生者であると認識することが可能である。従って、ヒアリング調査の中でも、当地に居住するブラジル人へのヒアリングの比重を厚くした。**
- ✓ 調査期間中にベトナム人、フィリピン人の方のオピニオンリーダー的な人物は発掘できなかった。

(2) ヒアリング調査の結果概要

ヒアリング調査1: イベント会場

～ 地域における多文化共生に関心がある不特定多数の人物との接触 ～

- ✓ 地域における多文化共生に関する人々が集まるのはいつで、どこかということを検討した。
- ✓ 例年、多数の外国人居住者が集まる「たかおか国際フェスティバル、2019年11月17日開催」にて、調査票に基づく簡単なヒアリング調査を実施することにした。

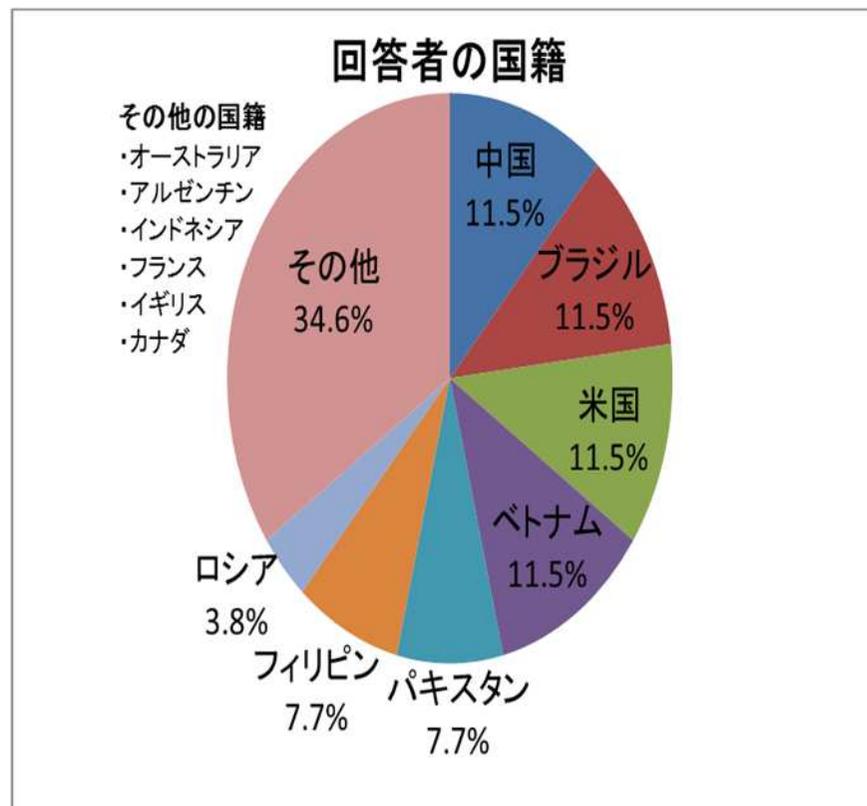
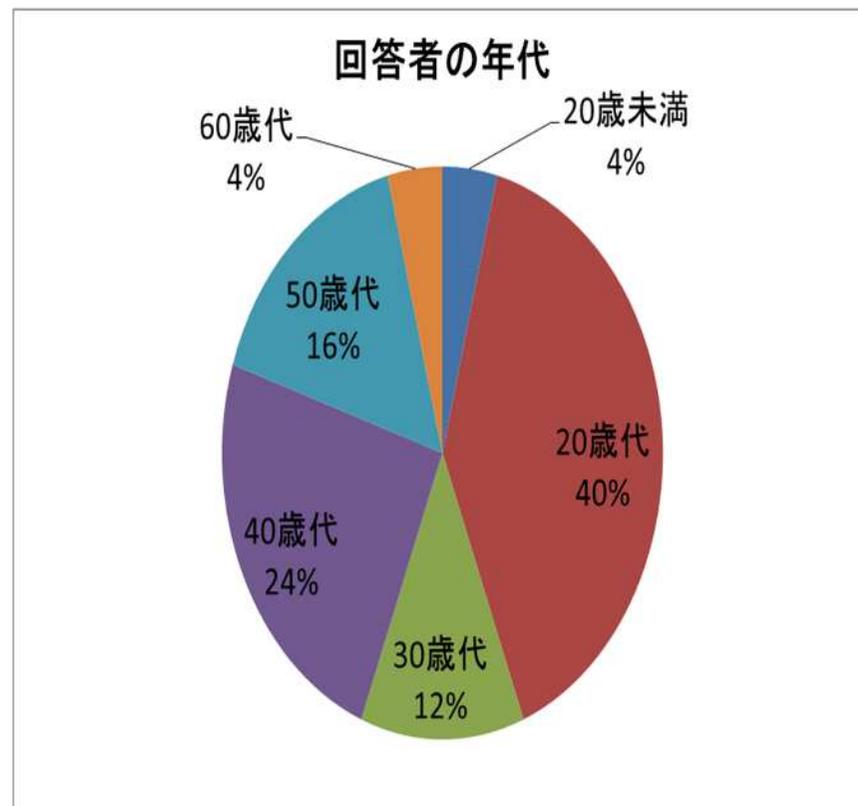
イベント会場とヒアリング調査



イベント会場風景 八坂撮影

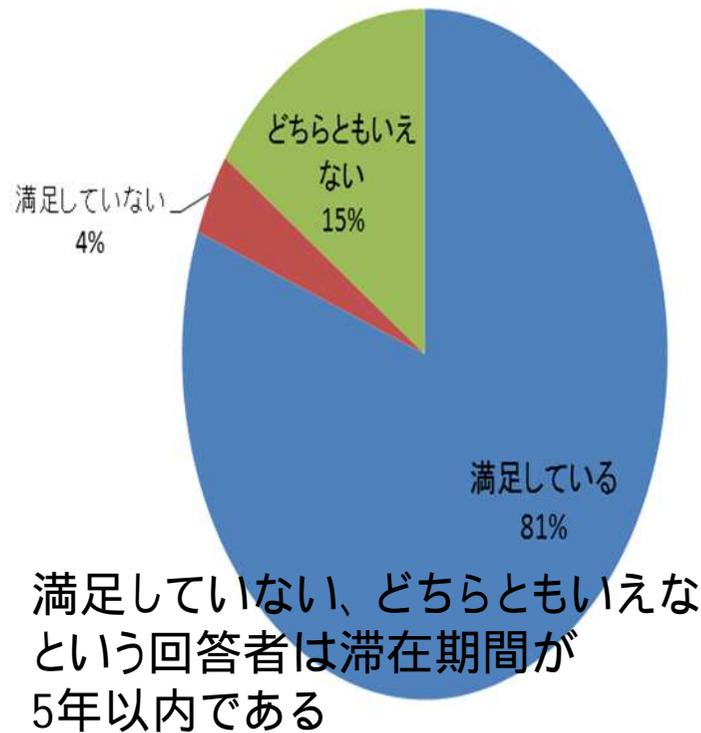
ヒアリング調査1：イベント会場

- 回答者は26人
- 男性11人 女性14人 無回答1人



暮らしやすい地域社会づくり

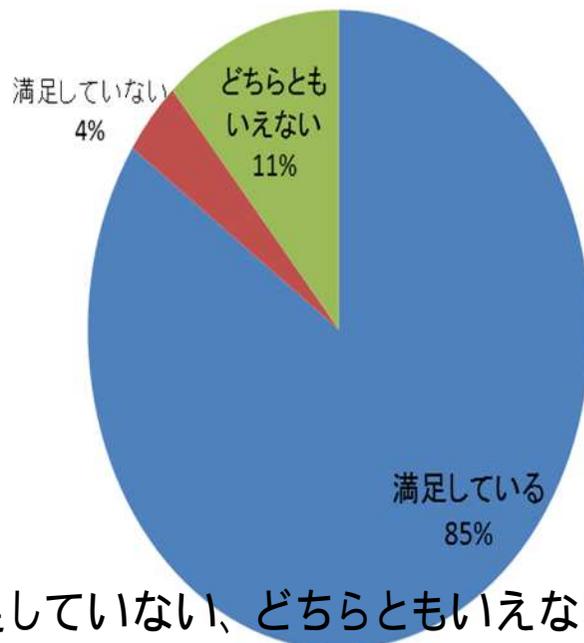
地方自治体・行政のサービスに満足しているか



- 評価するサービス
 - ✓ 外国人に対しても平等な対応
 - ✓ 治安が良い
 - ✓ ゴミ袋が無料
 - ✓ 市役所の政策、対応 特に多文化共生

生活サービス環境の改善等

生活地域の医療・保険・福祉サービスに満足しているか



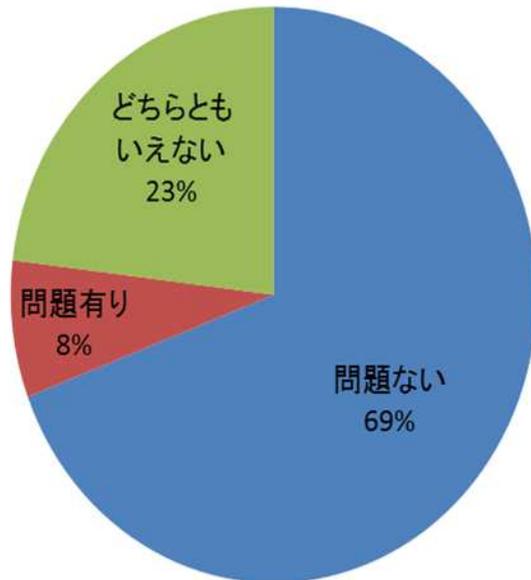
満足していない、どちらともいえないの回答者に共通点は見つからなかった

□ 改善して欲しい点

- ✓ 英語を話せる医者が見つげにくい
- ✓ 簡単なコミュニケーションがとりたい

生活サービス環境の改善等

災害発生時の情報発信は問題ないか



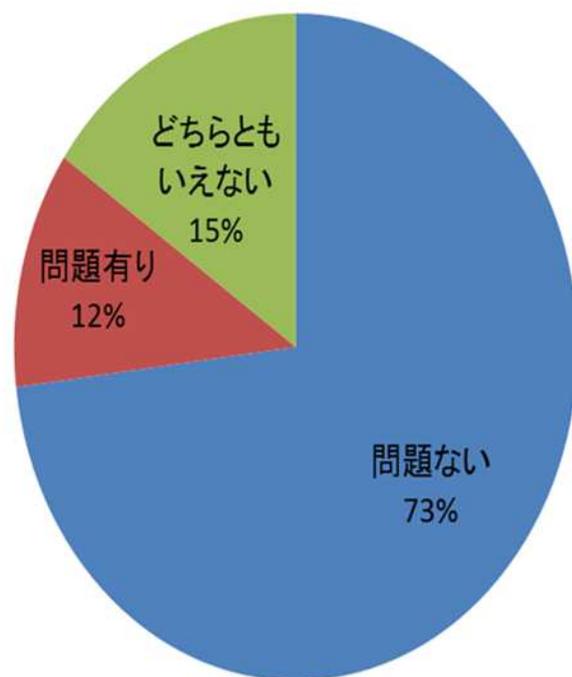
問題有りと回答した2人は
20歳代であり、賃貸住宅に住んでいる

□ 改善して欲しい点

- ✓ 災害時に何をすべきかわからないので教えてほしい

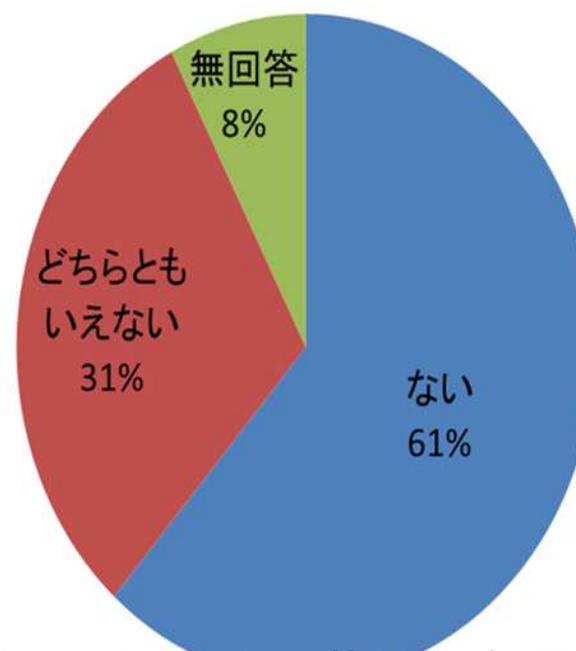
円滑なコミュニケーション

生活のための日本語・多言語環境は問題ないか



問題があるという回答者は滞在期間が10年以内である

子供の教育に不安・不満を感じていないか



どちらともいえない若しくは無回答だった回答者は一人を除くと子供が居ない家族構成であった

母国の帰国した人たちが、日本にもう一度来てもらうために何を改善すべきか（自由記述）

- ✓ 国際交流イベントをもっとおこなってほしい
- ✓ お互いのことを理解し合えるようにする
- ✓ いじめの無い社会にしてほしい
- ✓ 外国人は外の人という考え方をやめ、グローバルな視点で異文化を取り入れ学び合う

ヒアリング調査1による知見および成果

- 「暮らし易い地域づくり」
 - ✓ 行政や住民の対応には一定の評価
- 「生活サービス環境の改善等」
 - ✓ 医療機関の多言語対応の要望が強い。
 - ✓ 多言語対応の実施施設の周知や、伝達の工夫等の希望あり。
- 「円滑なコミュニケーションの実現」
 - ✓ 時代の流れに沿ったIOTやAIの導入などのサジェスチョンあり。
 - ✓ こうしたいいくつかの改善の提案はあるものの、現行の基盤インフラの整備については、特段不満を抱いているというレベルではないということが確認

(2) ヒアリング調査の結果概要

ヒアリング調査2：個別ヒアリング

～ 地域における多文化共生に関心があり、自らも地域活動、メディアなどを通じて情報発信を行っている人物との接触～

ア) 外国人住民

a) ヒアリング対象者等

- ✓ 呉西地区におけるブラジル国籍の在留者が多いこと、当地在住期間を10年以上に絞り込んだことから、ブラジル国籍の外国人住民からのヒアリングが相対的に多くなった。
- ✓ 内訳は、ブラジル人9名、アメリカ人3名、中国人、ネパール人、パキスタン人、イスラエル人、バングラデシュ人各1名計17名

国籍別ヒアリング要望等 (直接訪問聴取)

コードシステム	中国	パキスタン	イスラエル	ネパール	バングラデッシュ	アメリカ	ブラジル
暮らしやすい地域社会づくり							
行政・生活情報の多言語化、相談体制の整備		●				●	●
地域における多文化共生の取組の促進・支援	●	●	●	●		■	■
生活サービス環境の改善等						●	
医療・保健・福祉サービスの提供環境の整備等	●		●		●	●	■
災害発生時の情報発信・支援等の充実							
交通安全対策、事件・事故、消費者トラブル、法律ト:					●	●	■
住宅確保のための環境整備・支援		●					●
金融・通信サービスの利便性の向上						●	
円滑なコミュニケーションの実現							
日本語教育の充実		●			●		■
日本語教育機関の質の向上・適正な管理		●	●				■

b) ヒアリング調査2による知見および成果

- ✓ 日系ブラジル人は、アクションを起こさないかぎり、10年たっても日本語の読み書きができない環境下にいる人たちが多数存在し、こうした人たちが、今後、壮年—老年期を迎えていく(データ例:年齢別ブラジル人)。
- ✓ 言語弱者が社会的に孤立しないような継続的な施策「円滑なコミュニケーションの実現」は重要である。
- ✓ リーマンショック以降当地に踏みとどまった外国人住民は、当地で培った人脈やコミュニティでの協力を最大限活用して、医療・保険・福祉サービスといった生活サービスを巧みに享受していることも確認できた。

- ✓ 彼らが求めるのは基盤インフラの整備の充実のみならず、
「暮らしやすい地域社会」に積極的にコミットしていこうという
熱い思いを有していること。
- 自然災害が発生したら、コミュニティの仲間でバスを出して、カレーの炊き出しのボランティア活動に邁進するパキスタンの仲間たち、
- 地域町おこし隊の隊員となり、中国からの観光客に富山の魅力を提供し、時間があれば町中で老若男女問わず中国語教室を教える中国人のかた、
- 日本人といっしょになって町づくりや、観光めぐりを企画する米国人
- ✓ みずからが支援される立場ではなく、自らの特性を活かし、地域での共生に意欲を持って取り組んでいる外国人住民が呉西地区にも多数存在している

(2) ヒアリング調査の結果概要

パネルディスカッション:シンポジウム

～ 地域における多文化共生に関心がある2ndステップの中で抽出したオピニオンリーダー的な人物から、更に「本音」を引き出す～

- ✓ 2020年2月15日に多文化共生シンポジウムを実施した(場所:高岡ウイング・ウイング)。
- ✓ 当地の「外国人材」のオピニオンリーダー3名、および当地において個人で「外国人材」を積極的に支援している方1名(日本人の方)に登壇してもらい、「呉西地区における外国人が住みやすく働きやすい環境とは」をテーマにパネルディスカッションを開催した。
- ✓ パネルディスカッションに登壇者に現在の活動内容→パネラー各人が抱く多文化共生に対する課題→各パネラーが抱く課題解決策につき議論してもらった。

多文化共生シンポジウム

多文化共生シンポジウム
Multicultural symposium
 地域に根差した多文化共生を考える

高岡法科大学
 入場無料

第一部 13:00～

基調講演1 「多文化共生への高岡市の取り組み
 (教育の観点から)」 米谷 和也 氏
 高岡市教育委員会 教育長

基調講演2 「外国人人材・多文化共生と地域創生
 (NGOからみた取組実態)」 宮田 妙子 氏
 NGOダイバーシティとやま代表

報告 「呉西地区における外国人受け入れ・
 多文化共生取組の検証」 八坂 徳明 氏
 高岡法科大学 法学部教授

第二部 15:00～

パネルディスカッション
 「呉西地区における外国人が住みやすく働きやすい環境とは」

コーディネーター 柴垣 禎 氏
 NGOダイバーシティとやま事務局長

パネリスト 木口 実 氏
 富山日伯交流友の会会長

Nawab Ali Behlum 氏
 Welfare Social Society Toyama Japan

ダルマ ラマ 氏
 富山ナパール文化交流協会会長

前田 啓子 氏
 にほんご広場なんと代表

日時：2020年2月15日(土) 13:00～16:30

場所：ウイング・ウイング高岡5F 503研修室(高岡市生涯学習センター5F)
 主催：高岡法科大学
 後援：とやま呉西圏域(高岡市・射水市・氷見市・砺波市・小矢部市・南砺市)
 高岡市教育委員会

住所・氏名・電話番号などをご記入の上、下記までお申込みください。

【お申込み・問い合わせ先】
 高岡法科大学 学生課 ■ 電話 (0766) 63-3388 ■ FAX (0766) 63-6410
 〒939-1193 高岡市戸出石代307-3 ■ HP: www.takooka.ac.jp

お申込みは
 コチラから





シンポジウム風景 八坂撮影

高岡法科大学

課題解決：パネラーの「生」の声 Kさん(日系ブラジル人)

- ✓ 日本は、最初から受け入れ体制をしっかりと整えて、外国から人を招くことが大事ではないか、ということ、私たちは痛い目にあって、今、しみじみと感じています。
- ✓ ここに住んでいる地域の人たちが「外国人といっしょに生活することがすごく大事だ」ということを認識して、皆さんがお住いの地域の中に外国人がいたら、その人たちをバックアップするとか、仲良くいっしょにいようという気持ちを持っていたかかないと、だめだと思います。

課題解決: パネラーの「生」の声

Aさん(パキスタン人)

- ✓ 私はすごく心配していることがあります。私の子供たちは、日本人でもなく、パキスタン人でもない中途半端な状態になってしまいました。
- ✓ だから、パキスタンに行っても、合わない感じになっているのですが、日本にいても、どこでも外国人扱いです。それが私たちの中では、だんだん大きな心配、問題になってきています。
- ✓ 私たちの子どもが「パキスタン人」ではなくて、「日本人」と言われると、私はうれしいし、子どもたちもうれしいと思います。

課題解決：パネラーの「生」の声 Dさん(ネパール人)

- ✓ 大学など学校に入って勉強しようとしても入れません。もちろん選挙権もありません。
- ✓ 一般の住民といっしょに同じ考え方でやりましようと言っても、「外国人は外国人」とされてしまうことがあります。
- ✓ それでも、15年前の外国人を取り巻く環境にくらべ、今の外国人を取り巻く環境はどんどんよくなってきています。

日本人サポーターの「生」の声

Mさん

- ✓ 外国人とは、何語で話せばいいんですか」というふうによく言われるのですが、みんな日本語でいいのです。ただし、敬語を使わないとか、やさしい日本語で。
- ✓ 「心があれば、コミュニケーションはできるんです」というふうにお伝えして、「機会があれば、やさしい日本語を使えばいいんですよ」というふうにお話しするようにしています。

(3) ヒアリング調査からの知見

- ✓ 当地に居住する「外国人材」は、縁あって当地で生業（なりわい）を営んでいる人たちであり、彼らの求めていることは、自らも、その地の地域住民とともに、地域住民の「身(み)の丈(たけ)」に応じた地域住民となりたいという願望を抱いているということ
- ✓ 地域に根差した「外国人材」は、あるときは地域住民とともに、あるときは同胞のために、**不断の努力を継続している**ということ
- ✓ 更には、**地域住民がこうした「外国人材」の取り組みを認識し、加えて、同じ地域住民として共に地域の未来を考えることが「共生」へ第一歩であると再度認識**

4.地域に根差した多文化共生とは

- 2020年2月15日に開催したシンポジウム の参加者のご意見(シンポジウム アンケート参照)。
- ✓ 市民レベルでも多文化共生に関心がある大方の方は、今後の多文化共生による地域づくりの必要性は十分認識
- ✓ 多文化共生は、多文化共生にかかわる様々なイベントにより、市民レベルで「共生者」としてのふれあいの頻度を上げれば、共生の進展は可能

呉西地区における地域に根差した多文化共生 はどうあるべきか（3つの視点）

- (1) 遠くのBest Practice (好事例)よりも近くの
Better Practice (参考事例) の実践
- (2) 地域住民のマインドセットの醸成
- (3) 地方における多文化共生の真のニーズ
の模索

(1) 遠くのBest Practice (好事例)よりも近くのBetter Practice (参考事例)の実践

□ 高岡市は、富山県西地区においては、他市町村にはない多文化共生の取り組みを行っているといえる。

- ✓ 他市に先駆けて、「多文化共生室」を設立し、高岡市国際交流協会とも密接な連携を図り、在留外国人の活動支援はもとより、**一般市民に対する啓蒙活動も積極的**(高岡国際交流フェスタ)
- ✓ 外国人居住者に対し、**行政が相談窓口サービスを開設**、母国語を扱える人材を配置、丁寧な行政サービスを推進
- ✓ **教育においても**、外国人児童の密集地には、**外国人相談員を重点的に配置**して丁寧な対応を実施してきたことは当地外国人居住者の中でも高い評価
- ✓ 市民病院にもポルトガル語の通訳の女性を配置、市町村行政域を超えてでも、医療診察は同病院を利用 **福利厚生面でも裾野では市行政単位を超えた多文化共生が進展**

提言1 近隣自治体間での行政サービスの相互補完の促進

- ✓ 呉西地域の地域経済循環の中で、呉西広域地域連合として市町村の枠組みを超えた、実務レベルでの行政サービスの相互補完を検討する段階

(2) 地域住民のマインドセットの醸成

- 「多文化共生」の取り組みは、決して、行政のレベルにとどまるものではない。
- ✓「多文化共生」は、どこか遠いところで起きているといった認識ではなく、むしろ、身近なことであると地域住民の一人ひとりが自覚することが重要(市民参加の多文化共生の認知度を上げるべきだとの意見が多数)

提言2 市民参加意識の醸成

- ✓ 「外国人材」との交流イベントの広報活動の活発化、情報の共有化
- ✓ 呉西地域の広域からの参加者の増加が期待される「共生」イベントの活性化が必要
 - 例「たかおか国際交流フェスティバル」などのイベントも工夫次第では地域住民が主体となりうる
- ✓ 市民参加の意識が醸成 多文化共生への呉西地区独自の文化が形成される期待有り

(3) 地方における 多文化共生の真のニーズの模索

□ 呉西地区は、現状では、「外国人材」とは、ほど良いバランスで共存可能

✓ 忘れてはならないのは、
「外国人材」は“人材“であること

✓ “人材“を地域がカスタムメイドすることにより、地域で活躍できる、そして地域住民と将来に渡って「共生」できる地域づくり、町づくりがあってもいい

提言3

地域特性に応じた柔軟な「共生」の模索

✓ 地域特性(居住人材の国籍・属性など)に応じた柔軟な「共生」の模索

- 景気低迷下で、外国人の非正規労働者が路頭に迷うことがあったら、本人が希望すれば、地域限定の枠組みのなかで、産業を越えた職業選択の自由の許容(二次産業従事者から一次産業従事者)など。



✓ 柔軟な政策展開が、地域住民や地方行政のなかに芽生える時代がくることを期待

5.おわりに

—地域に根差す多文化共生のスタートとは—

- ✓ 当地で地道に「多文化共生」に取り組むことは極めて重要
- ✓ シンポジウムの登壇者(日本人)の方の発言で、参加者も気付かされたこと

- 物おじせず、気楽に「やさしい日本語」で外国人とおぼしき人たちに声をかけることが出発点
- 特別な先入観を持たず、姿形が外国人と見えようともまずは、「日本語で話しかける」(つまり、あなた、わたしはこの土地 富山(とやま)の住人(じゅうにん)ですよとお互いに認識する)

ご清聴ありがとうございました